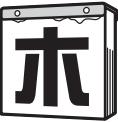


check!



16ビートとは4分の4拍子で16分音符を基本としたビートで、2拍目、4拍目にアクセントを置くアフター・ビートのスタイルです。8ビートの応用的要素がありますが、16ビートとしての傾向は、より音符が細かくなっていくことでしょう。2拍ずつのまとまりでリズムを読んでください。



check!

201
365

16分音符にフォーカス

Track 207

♩ = 68

休符は「休む」という感覚ではなく、緊張感を持って飛び越えるようなイメージで捉えてみてください。あるいは、飲み込む音という感覚で弾いてみても新しいノリが生まれそうです。



check!

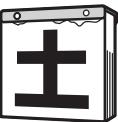
202
365

16ビートでキメのフレーズ

Track 208

♩ = 115

1音づつをハッキリと発音させる意識を持って弾きましょう。休符をしっかりと感じられないと、走って転んでしまう原因になり、カッコがつきません。



check!

203
365

左右のコンビネーション

Track 209

♩ = 80

16ビート王道の伴奏パターンです。両手のタイミングがゆるゆるだったり、ぎくしゃくしたりしなくなるまで繰り返し練習しましょう。繰り返すことで、ピタッとハマる感覚に出逢えます。



8ビートと16ビートの曲

8ビートがわかりやすい曲は「サザエさん」の冒頭曲、「鉄腕アトム」、「イエスタディ」……などなど、たくさんあります。16ビートがわかりやすい曲は「ルパン3世」、「宝島」、「素顔のままで」などなど。最近では、8ビートと16ビートが混在している曲も多くありますね。これらの曲で、8ビートや16ビートにノる練習をすると、ビート感覚が身につくのも速いでしょう。また、曲を聴いた時に、その曲が8ビートか16ビートか、または別のビートの曲なのかを考えるのも、リズム・トレーニングになります。

8ビートと、16ビートのリズムの特徴は以下のリズム譜の通りです。演奏する時、曲を聴く時の参考にしてください。

The diagram illustrates the difference between 8-beat and 16-beat rhythms. It shows two sets of eighth notes. The top set, labeled '8ビート', consists of four eighth notes grouped together by a vertical bar, indicating a strong beat every two notes. The bottom set, labeled '16ビート', consists of sixteen sixteenth notes grouped into four pairs by vertical bars, indicating a strong beat every four notes.